

長期入院児と家族のための生活環境

—「病棟装飾」を実施した看護学生の気づきの評価—

阪口しげ子

Hospital environment for long term hospitalized children and families

—Evaluation of nursing student's consciousness

through decorating a pediatric ward—

I analyzed the most comfortable living environments for sick children and accompanying families in the hospital by using nursing student's reports on the decoration of the pediatric ward. The students reported the most comfortable living environments for the sick children and their family through their reactions to a ward decoration. I selected the words related with environment and categorized them for sick children and their family.

Seven conditions were better for sick children as follows: 1) comfortable like their home; 2) atmosphere with 4 seasons; 3) greater stimulation; 4) according to their growth and development; 5) refreshing environment; 6) suitable for their activities; 7) able to communicate with healthy children. For accompanying families, the following 7 conditions were better: 1) relaxed atmosphere; 2) comfortable like their home; 3) refreshing environment; 4) atmosphere with 4 seasons; 5) able to play with their families; 6) according to their children's growth and development; 7) able to communicate with accompanying family. I confirmed these 14 conditions were useful and effective for hospital environments.

Key Words :

Long term hospitalized children (長期入院児), Accompanying family (付添いの家族), Living environment (生活環境), Ward decoration (病棟装飾), Student's consciousness (学生の気づき)

はじめに

小児にあっては、長期の入院生活環境から受ける成長・発達への影響は多く、その家族にとっても、不安は大きい¹⁾。病児にとって病棟は治療の場であるとともに生活の場であり、病棟の環境は病児の健康が回復するとともに、楽しく成長・発達ができるように整えられなければならない。しかし、実際には子どもの発達段階を考慮した生活空間や生活時間の活用は十分ではなく、子どもの発達と生活の質の向上をふまえた生活環境の視点が重要になっている。

子どもは置かれた様々な環境に敏感に反応する。入院という特殊環境のなかで、子どもがより快適に生活できる環境を整えることは、病児の日常生活を援助するうえで不可欠な条件であり、看護の重要な視点である。

本学では小児看護学の臨地実習において、「病棟装飾」や「遊び」の実施をとおして子どもの生活空間や生活時間への援助の必要性と方法について学習をしている。病児の生活環境について、「病棟装飾」の視点で検討した報告は少ない。そこで今回は、看護学生の「病棟装飾」の実施から、学生が長期入院を余儀なくされた病児とその家族にとってどのような生活環境を整えることが望ましいと気づけたかを分析した。その「気づき」に基づいて、生活環境に対する援助の必要性を明確にするとともに、学習度を検討し、今後の指導上の資料とする目的で本研究を実施した。

対象および方法

対象：S大学医療技術短期大学部平成8年度3年次生80名。

方法：病棟における小児看護実習の実習期間中に、「病棟装飾」を課題として実施し、

学生から実施前に提出された企画書と実施後に提出された実施記録を分析した。また、13名の母親から「病棟装飾」についての感想をインタビュー形式で聴取し、学生の気づきに対して妥当性の検討を試みた。企画書の内容は「テーマ」、「ねらい」、「装飾の内容」、「工夫する点」であり、また、実施記録は「入院児と母親にとって、どのような生活環境が必要と思いますか」の問いについて自由記述されたものである。母親へのインタビュー内容は「装飾をみてどのように感じられますか」であった。

分析内容は、学生がどのような生活環境を目指して「病棟装飾」を行おうとしたか、そして、装飾に対する病児・家族の反応から、病児・家族にとって必要な「装飾」とは何かに気づき、望ましい生活環境として何をとらえたかである。

分析方法は、筆者が観察した学生の「装飾」の実施場面、子ども・母親の反応に照合して、記録の記述から生活環境を表現していると判断できる用語を抽出し、類似した用語をまとめて分類し、内容を表す名称をつけた。あわせて、その環境を必要と気づいた場面を対応させて抽出し、気づきの過程も確認した。

記録の分析については、学生に対して提出時に資料作成の旨を伝えて了解を得た。

平成8年度の実習の展開と「病棟装飾」の実施方法は表1に示した。なお、実習病棟は小児科病棟で、プレイルームはなく、病棟の入口にあるエレベータホールが多目的の「遊び場」として使用されていた。病児の多くは半年から1年近くの入院を宣告されており、外泊・外出も制限されることが多かった。また学童で低学年以下の病児が比較的多く、母親が付添っているケースが多かった。

表1 平成8年度の実習展開と「病棟装飾」の実施方法

[実習展開]	
1. 実習名称:	小児看護実習Ⅰ(病児の看護)
2. 実習期間:	3週間
[病棟装飾]	
1. 課題:	「小児の生活環境を理解し、小児の成長発達を助成する環境を考える」
2. 企画・準備:	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が病児とその家族の病棟での生活環境へのニーズを考え企画する ・企画は実習グループ単位で行う ・企画書を提出する (内容:テーマ, ねらい, 装飾内容, 工夫する点)
3. 実施時期:	実習の3週目に実施する
4. 反省会:	実施後, 企画・運営について行う
5. レポート提出	テーマ:「入院児と母親にとって, どのような生活環境が必要だと思いますか」について具体的場面を示して記述する(自由記述)

結果

1. 企画の内容

表2に各グループの企画した装飾内容を示した。ほとんどのグループのテーマは実習時期の季節を表現したものが多く、他は親子関係を表したり、病児の健常な時の生活を思い出させるものであった。

「季節」をテーマとしたグループは、一同に季節を表現することで、外出できずにずっと病棟内で生活している子どもや母親に「季節」や「季節の移り変わり」を味わってもらえるようにしたいと考えていた。また、他のグループは「病児の健常な時の生活」を考え、児が自由な夢のある生活や、家族・親子の絆を感じられるようにしたいと考えていた。そして、すべてのグループが子どもが明るく過ごせ、気分転換ができるような環境を

造ることをねらいとしていた。制作にあたっては「生き生きと」「本物らしく」「親子がともに楽しめるように」という点を工夫し、ねらいをより引き出すようにしていた。

各グループの装飾内容および特徴を図1に示した。作品はホールにある柱を「木」に仕立てて、木に花が咲いたり、葉陰に動物や昆虫が遊んだり、紅葉したり、果実をつけたり、クリスマスツリーと季節にあわせて変化していった。また、天井から小鳥や赤トンボをつり下げ、風で動きを導いた。花、動物、昆虫、果実などは工作・折り紙で造られ、全てが立体的に仕上げられた。「空で遊ぶ動物達」や「動物の親子」は病棟の廊下の壁一面に貼られた。

2. 長期入院児のための望ましい病棟環境

装飾後、学生が長期入院児の病棟環境として望ましいと気づいた内容を、気づきの場面の記述とあわせて示した(表3)。

望ましいとされた環境は、抽出した157語を整理し、内容を表す名称をつけた結果、

- 1) 家庭のような居心地の良い環境: 28.0%
 - 2) 季節感を味わえる環境: 17.8%
 - 3) 新しい刺激のある環境: 17.2%
 - 4) 成長発達にあった環境: 15.9%
 - 5) 気分転換のできる環境: 9.6%
 - 6) 子どもらしく生活できる環境: 5.7%
 - 7) 健常児の生活と結びついた環境: 5.7%
- の7カテゴリーに分類された。

望ましい環境と気づいた場面との関連性

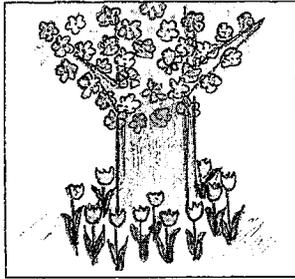
1) 家庭のような居心地の良い環境

分類された項目中最も多い内容で、明るい、楽しい、和やかな、あたたかい、家庭的という内容でまとまっており、作品を見た子ども達の表情に笑顔が見られ、明るく、和らいだ雰囲気を見て、また外泊を楽しみにしている姿を見て必要性を気づいていた。

表2 病棟装飾の企画内容

実習期間	テーマ	ねらい
4 / 15 ~ 5 / 10	春	病棟内で「春」を感じられるようにする 明るく、気分転換のできる場所を提供する 子ども達が自然に足を運んで遊べる空間にする 子ども、母親、スタッフ、通路を通る人達の気持ちを一瞬でも和ますことができるようにする
5 / 13 ~ 5 / 31	新緑のジャングルと小鳥のさえずり	初夏らしい季節感を現し、自然の中で遊んでいる気持ちになってほしい 動物・鳥などの名前が覚えられるようにする ホールへ来ることが楽しみになるようにしたい 病棟の中であって、明るい遊び場になるようにする
6 / 3 ~ 6 / 21	夏の山・夏の海	「春」から「夏」への季節の移り変わりを感じられるようにする 子どもの気分転換の場所にしたい 子どもの笑顔が見られる場所にしたい 少しでも「病院」を感じない場所にしたい
6 / 24 ~ 7 / 12	空で遊ぶ動物達	病棟を明るく、さわやかな雰囲気にする 病棟を幼稚園・学校・家庭のような雰囲気にした 子ども達に夢のわくように、また自由な発想や明るい心がもてるようにしたい
9 / 2 ~ 9 / 20	秋の青空運動	「秋」の季節を伝える 健常児のように運動会の雰囲気を味わさせる 子ども達の笑顔がこぼれる交流の場にした 子ども達が気分転換できるようにしたい
9 / 24 ~ 10 / 11	小さい秋みつけた	季節感を味あわせたい 子ども達の気持ちが明るくなるようにする
10 / 14 ~ 11 / 1	動物の親子	動物園に行った気分を味わさせる 動物の名前が覚えられるようにする 病棟内を家庭の暖かい雰囲気にする 親子の絆の強さを現したい 子ども達の喜ぶ笑顔を見たい
11 / 5 ~ 11 / 22	クリスマスにむけて	楽しいクリスマスを過ごせるようにする 季節感を感じさせたい 子ども達の沈んだ心を明るくするようにしたい 明るい親しみのある病棟にした

装飾の内容	工夫する点
満開の桜の木と チューリップの花 鯉のぼり	活気のある生き生きとした木にする 自分の「花」が咲く満足感の得られる木にする 「お花見」の気分を味わえるようにする 大空に泳ぐ鯉を表現する
新緑の木 動物と鳥	5月の新芽を表現する 動物・鳥を立体的に造り、風で動きをつける 遠近感をだして、より本物に見えるようにする 子ども達の作品を飾ることで、子どもの楽しさを増す
緑の木 昆虫 ひまわり 海と魚	本物らしく見えるようにする 立体感をだす 子ども達の作品を飾ることで、子どもの楽しさを増す
気球に乗るキリン 飛行機に乗るパンダ 虹を滑るペンギン 風船をつけた像	動物の顔を可愛くし、子どもの興味を引くようにする 明るい配色に努める
紅葉した木 コスモス畑 青空と赤とんぼ 運動会場の万国旗	運動会の雰囲気作り 子ども達と一緒に制作し、母親も喜べるようにする 夢のある空間にする
秋のフルーツ ブドウ、リンゴ、 ナシ、柿、栗	本物らしく、立体的にする 色彩を鮮やかにする
カバ、ダチョウ、し まうま、キリン、 象、パンダ、ゴリ ラ、ライオン、サ ル、ウサギ、コアラ	動物園にいる動物を選んだ
クリスマスツリー サンタクロース 星	華やかな物語風の雰囲気を出す 色彩をカラフルにする



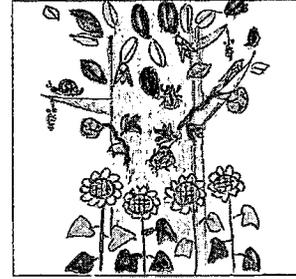
「春」

- ・満開の桜の木とチューリップで春を現す



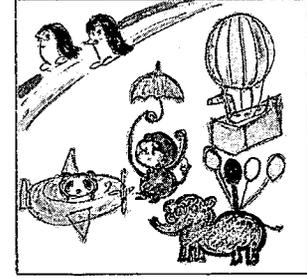
「新緑のジャングル・・・」

- ・新緑の木
- ・葉陰には動物が遊ぶ
- ・天井から小鳥をつるす



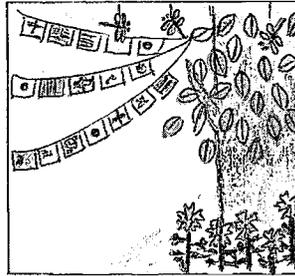
「夏の山・・・」

- ・緑の木とひまわりで夏を現す
- ・葉陰には昆虫がいる



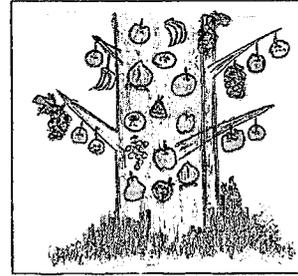
「空中で遊ぶ動物達」

- ・空中で動物達が思い思いの乗り物で遊んでいる



「秋の夜空運動会」

- ・紅葉した木とコスモスで秋を現す
- ・天井から赤トンボをつるす
- ・ホール全体に運動会の万国旗



「小さい秋みつけた」

- ・秋の果物がいっぱい実った木
- ・果物狩りになった



「動物の親子」

- ・壁一面に動物園にいる動物の親子を貼った



「クリスマス」

- ・クリスマスツリー
- ・壁にサンタクロースとトナカイを貼る
- ・窓ガラスに雪を貼った

図1 各グループの病棟装飾の内容

2) 季節感を味わえる環境

季節を感じられる、季節の移り変わりを味わう、年中行事を味わえるという内容のまとまりで、作品を見た子ども達が「もう夏なんだね」と木に止まる昆虫に興味を示したり、花の匂いに感動したり、運動会などの行事に熱中するなどの姿から必要性を感じていた。

3) 新しい刺激のある環境

病院外の様子を感じられる、新しい刺激のある、変化を感じる、飽きのこないという内容のまとまりで、新しい装飾の企画に対して子ども達が「今度はどんな木になるの?」「何の花が咲くの?」などと関心を示したこと、また、家庭で生活している児ならば知っているであろう事柄を知らない子ども達の姿を観て必要性を感じていた。

4) 成長発達にあった環境

興味・関心を深められる、勉強と遊びにつながる、行動を引き出す、知識を与えるという内容のまとまりで、作品をジーと眺める子どもや、本物の昆虫を見たことがない子どもが折り紙で示した作品を見て名前を覚えたり、虫や花に興味を示し作品を作り始めた。また、折り紙遊びなどは次々と他の子ども達に広がっていった場面を観て必要性を感じていた。

5) 気分転換のできる環境

ストレスの軽減・気分転換ができる、子ども達同士で遊べるなどの内容のまとまりで、作業を一生懸命に手伝ってくれた児の普段では見られない楽しそうな表情を観て、また、作品が出来上がるとホールで遊ぶ子どもが増える場面を観て必要性を感じていた。

6) 子どもらしく生活できる環境

自由な気持ちになれる、希望を持っていられる、子どもらしく振る舞えるなどの内容の

まとまりで、「空」を装飾のデザインに希望したり、子どもは同年齢の子どもとの接触から刺激されることが多いという姿を観て必要性を感じていた。

7) 健常児の生活と結びついた環境

健常児の生活・刺激量を補える、入院前の生活を思い出す、幼稚園・学校生活の刺激がある、病院とは異なる雰囲気をつくるなどの内容のまとまりで、作品をとおして入院前の生活を思い出し、楽しんでいる姿や病院の非日常の特殊環境を観て必要性を感じていた。

それらの内容は、児が「生活をしている」、「治療をしている」、「成長発達をしている」の視点で構成されていた。

3. 母親と家族のための望ましい病棟環境

装飾後、学生が母親・家族の病棟環境として望ましいと気づいた内容を、気づきの場面の記述とあわせて示した(表4)。

望ましいとされた環境は、抽出した133語を整理し、内容を表す名称をつけた結果、

- 1) ゆっくりとくつろげる環境：23.3%
- 2) 家庭のような居心地の良い環境：21.1%
- 3) 気分転換のできる環境：18.0%
- 4) 季節感・変化を味わえる環境：12.8%
- 5) 親子関係・家族のための環境：12.8%
- 6) 子どもの成長発達にあった環境：7.5%
- 7) 付添者が交流できる環境：4.5%

の7カテゴリーに分類された。

望ましい環境と気づいた場面との関連性

1) ゆっくりとくつろげる環境

分類された項目中最も多い内容で、自分の時間をもてる、休息のとれる、くつろぐことができる、憩いの場所という内容でまとまっており、母親が疲れてベットで休んでいる姿や児が愚図ったときなどにはホールへ出て過ごしている姿などを観て必要性を感じていた。

表3 長期入院児への望ましい病棟環境として学生が気づいた項目

N=74, N.A.=6 (抽出語数): 重複記載

望ましい病棟環境 (157)	気づきの場面 記述例
家庭のような居心地の良い環境: 生活の場 (44)	
明るい雰囲気 (6)	子ども達は木を見てニコッと笑い「赤いね」と言ったり、「葡萄食べたい」と言って見ていた。眼で見て楽しめる飾りは治療でも安心すると思う
明るい気持ちになれる (4)	
明るい (2)	
明るい色 (1)	木に花が咲いたり、鯉のぼりが泳ぐといっぱい興味を示すようになった
楽しい気分になる (6)	
楽しめる (5)	
安心できる (1)	桜の花がピンクじゃないと笑いながら話かけてきて、笑い話のきっかけができた
和やかな雰囲気 (1)	
優しい色 (1)	
かわいらしい (1)	子ども達が木に咲いた花を指し、「私はたくさんの色が入っているからこれが好き」と話していた
あたたかい雰囲気 (1)	
静かな (1)	
家庭に近い環境 (5)	病院の白い壁、医療器具に囲まれた生活は子ども達にとって苦痛であり、精神的にも良くない
家にいるときと同じような (2)	
家庭的な雰囲気 (1)	処置でいろいろと痛い眼に合うので、雰囲気を和やかにするために装飾が必要
家の生活に近づける (1)	
安全である (4)	児は外泊することを楽しみにしている
清潔な (1)	
季節感を味わえる環境: 生活の場 (28)	
季節を感じられる (12)	ホールで「もう夏なんだね」と言っている子ども達、木に止まっている虫を見ながら「これは～虫で」と一生懸命説明をしていた
季節感がある (6)	
季節感を養う (5)	
季節の移り変わりを味わう (3)	「運動会の飾り付けにするんだよ」と言ったら自分の運動会の話を嬉しそうにして、「運動会の旗をつくらう」と楽しそうに書いてくれた
四季があることを伝えられる (1)	
年中行事を味わえる (1)	
	院内学級で、先生と生徒達が一枝の桜に「いい匂いだなあ」と集まっていたのが印象的だった
	患児はいつも同じ風景をみている
	病院の中は温度の変化が少なく、児は季節の変化などに気づきにくい
新しい刺激のある環境: 成長発達場 (27)	
病院外の様子・空気を感じられる (9)	窓から遠くに見える桜の木をじっと見つめていた
自然を感じる (3)	
外の世界の刺激を与える (1)	木を作るとき、「どんな木になるの」「何の花が咲くの」という質問が多数出された
新しい刺激のある (5)	
変化を感じる (3)	
多くの刺激のある (3)	子ども達は周りに何かあると、「あれは何」「あっ〇〇だ」といつて来る
刺激を受けられる (2)	
飽きのこない (1)	塗り絵をしたときに色が分からない動物が多く、一つ一つ質問してきた。動物に接する機会が少ないためかな?
	子ども達が「今度はあの木に何を飾るの」などと聞いて、飾り付けを楽しみにしていた
	病室外に出られる子どもは、病室以外に出歩くことが好きみたい
	規制の多い生活をおくっている子どもは、外界からの刺激が少なすぎる

望ましい病棟環境 (157)	気づきの場面 記述例
<p>成長発達にあった環境：成長発達の場 (25)</p> <p>興味・関心を深められる (7)</p> <p>視覚的な刺激を与える (3)</p> <p>想像力をかき立てる (3)</p> <p>勉強と遊びにつながる (2)</p> <p>行動を引き出す (2)</p> <p>自然から学校で学べないことを学ぶ (2)</p> <p>発達を促すような刺激 (1)</p> <p>普通の子が受けている刺激 (1)</p> <p>正しい認識のできる (1)</p> <p>言葉を覚える (1)</p> <p>遊びに発展する (1)</p> <p>知識を与える (1)</p>	<p>生き物や植物等名前を知らない児がいる</p> <p>小さい児は、本物を見たことがないかもしれない</p> <p>蟻・蝶を怖がる児がいた</p> <p>子ども達は夏の虫や夏の花を折紙の本で探して折ってくれた</p> <p>小学3年生の児は秋の果物には何があるか、どんな魚がいいか調べて、自分たちの遊びに発展させた</p> <p>「おさるさん」「わにさん」と母親が子どもに作品を指さし、話しかけていた</p> <p>3歳児が壁に貼ってある絵をゾーッと見ていた</p> <p>子ども達は自分の書いた絵が飾られているのを見て、嬉しそうだった</p>
<p>気分転換のできる環境：治療の場 (15)</p> <p>ストレスの軽減ができる (5)</p> <p>気分転換ができる (3)</p> <p>病気・治療のことを忘れられる (2)</p> <p>子ども達同士で遊べる場所 (3)</p> <p>健康な子ども達がしていることができる (1)</p> <p>他の児と接する機会 (1)</p>	<p>一生懸命手伝ってくれて、楽しそうでふだんでは見られない表情を見ることができた</p> <p>作業を楽しみに待っており、子ども達が進んで手伝いにきて、楽しそうな表情だった</p> <p>木ができてからホールで遊ぶ子どもが増えた</p>
<p>子どもらしく生活できる環境：生活の場 (9)</p> <p>自由な気持ちになれる (3)</p> <p>気持ちに変化を出す (1)</p> <p>希望を持っていられる (1)</p> <p>自分を出せる場所 (1)</p> <p>枠にはまらずにいられる (1)</p> <p>子どもらしく振る舞える (1)</p> <p>子どもらしい生活のできる場所 (1)</p>	<p>デザインの希望に対して、「空」が多かった。自由になりたいという心の現れと感じた</p> <p>3歳児の部屋に同年齢の児が入院してきて、その子に刺激されているようであった</p>
<p>健常児の生活と結びついた環境：生活の場 (9)</p> <p>健常児の生活・刺激量を補える (1)</p> <p>入院前の生活を思い出す (1)</p> <p>動物園や遊園地等を味わうことができる (1)</p> <p>病院ではない雰囲気をつくる (3)</p> <p>学校と家のような異なる空間 (1)</p> <p>幼稚園・学校の感じ (1)</p> <p>学校生活の刺激がある (1)</p>	<p>健康な児は学校へ行けば行事があり、外へ行けば刺激がいっぱいある</p> <p>子どもは自然に触れる中で、学校で学べないさまざまなことを学ぶことができる</p>

表4 母親・家族への望ましい病棟環境として学生が気づいた項目

N=74, N.A.=6 (抽出語数): 重複記載

望ましい病棟環境 (133)	気づきの場面 記述例
<p>ゆっくりとくつろげる環境：生活の場 (31)</p> <p>自分の時間がある (7)</p> <p>1人になれる場 (3)</p> <p>休息のとれる (6)</p> <p>ゆっくり休める場 (3)</p> <p>くつろぐことができる (6)</p> <p>リラックスできる (2)</p> <p>憩いの場所 (2)</p> <p>疲れを忘れることができる (1)</p> <p>静かな (1)</p>	<p>疲れてベッドで休んでいる姿をよく見かけた</p> <p>兄の散歩やぐずったときにはホールで過ごしていた</p> <p>母親が兄を離れてホールで会話をしている</p>
<p>家庭のような居心地の良い環境：生活の場 (28)</p> <p>明るい雰囲気 (6)</p> <p>心を和ませる (4)</p> <p>安らぎの場 (2)</p> <p>心が安らぐような (2)</p> <p>ホッとできる (3)</p> <p>ホッと息を抜けるような (1)</p> <p>ホッとするような (1)</p> <p>落ち着いた (1)</p> <p>落ち着いた (1)</p> <p>楽しい (1)</p> <p>あたたかい気持ちになる (1)</p> <p>アットホームな (1)</p> <p>家庭のような (1)</p> <p>家庭に近い (1)</p> <p>きれいな (1)</p> <p>感染のない (1)</p>	<p>廊下を通る人たちが、「きれいねー」と足を止めて眺めていた</p> <p>「ホールが明るくなった、ホールを通るのが楽しみです」と喜ばれた</p> <p>飾りを見て、ニコニコしている姿がある</p> <p>「可愛いわね、動物達」とお母さん達が微笑みながら言ってくれた</p> <p>付き添っている家族はいつも不安や心配をもっている</p> <p>子どもの病状に左右される母親</p> <p>いつも子どもと一緒に生活</p>
<p>気分転換のできる環境：治療の場 (24)</p> <p>ストレスの発散 (8)</p> <p>気分転換をはかる (7)</p> <p>病院生活を僅かでも忘れることができる (3)</p> <p>病院を感じさせない (1)</p> <p>子どもの病気のことを忘れられる (1)</p> <p>気分がリフレッシュできる (2)</p> <p>心に余裕の持てるような場 (2)</p>	<p>わがママを言う兄に「治ったら、10回ぶつからね」と怒っていた</p> <p>兄が「今日、お母さん機嫌が悪いの」と母親の顔色を見る</p>
<p>季節感・変化を味わえる環境：生活の場 (17)</p> <p>季節を感じる (5)</p> <p>季節感が感じられる (2)</p> <p>季節の変化を感じる (2)</p> <p>変化のある雰囲気 (4)</p> <p>病院外の様子がわかる (3)</p> <p>飽きないような (1)</p>	<p>母親達は子ども達より早く、飾り付けの変化に気づき「いいねー、秋だね、うれしいね」と言っていた</p> <p>「あー、もう運動会の季節なのねえ」と飾りを見て言っていた</p> <p>飾り付けが終わるとみんな見に来てくれて、良い表情で声をかけてくれる</p>

望ましい病棟環境 (133)	気づきの場面 記述例
<p>親子関係・家族のための環境：生活環境 (17)</p> <p>子どもの笑顔がみられる場 (4)</p> <p>子どもが書いた絵や工作を飾ってあげる (2)</p> <p>子ども達が嬉しそうにしている環境 (2)</p> <p>子ども達が明るい気持ちで過ごせる環境 (1)</p> <p>子ども達が楽しく過ごせる環境 (1)</p> <p>子どもと遊べる場 (1)</p> <p>子どもと一緒に喜んだり、楽しめる場 (2)</p> <p>子どもと一緒に見ながら楽しめる場 (1)</p> <p>親子で心が和むような休息できる場 (1)</p> <p>家族団らんの場 (2)</p>	<p>子どもが花をつくるのをジーと見つめ笑顔がでていた</p> <p>飾り付けが少し変わるとすぐに子ども達に知らせて一緒に見に行くという姿が多く見られた</p> <p>母親も子どもと一緒に準備に参加し、楽しんでいた</p>
<p>子どもの成長発達にあった環境：成長発達の場 (10)</p> <p>子どもの成長過程が示せる場 (2)</p> <p>子どもの絵、習字などの発表の場 (4)</p> <p>成長発達の手助けになる環境 (2)</p> <p>子どもに積極的に話しかける場 (1)</p> <p>季節の飾りつけで四季の変化、行事を子どもに話しやすくなる (1)</p>	<p>「いつお花咲くの？ 去年の春はお花見にいったんだよねえ」と子どもに話しかけていた</p> <p>虫や壁に貼ってある絵を見て、子どもに名前を教えていた</p> <p>児の作品を見て、「これは誰が書いたの？」とか「〇ちゃんのだね」と楽しんでいた</p> <p>自分の子どもの作品を見て、喜ぶ母親が多かった</p> <p>学童の母親は児の勉強を心配している</p> <p>「毎日、本を買ってあげることではできない」という母親がいた</p>
<p>付き添い者が交流できる環境：治療の場 (6)</p> <p>お母さん達が交流をもてる場 (5)</p> <p>誰かと心おきなく話ができる場 (1)</p>	<p>母親同士子どもと離れてホールで会話をしていることが多い</p> <p>ホールに小児科以外の人たちの姿もあった</p>

た。

2) 家庭のような居心地の良い環境

明るい、心を和ませる、安らぎ、ホッとできる、楽しい、家庭のようなという内容でまとまっており、作品を眺めに集まってくる母親の姿やいつも子どもの病状に左右され、不安や心配をもっている母親の姿などを観て必要性を感じていた。

3) 気分転換のできる環境

ストレスの発散、気分転換、病院生活を忘れる、心に余裕がもてるなどの内容のまとま

り、母親がわがままをいう児にあたっている姿や児が母親の顔色をみるという姿を観て必要性を感じていた。

4) 季節感・変化を味わえる環境

季節を感じる、季節の変化を感じられる、病院外の様子がわかるという内容のまとまりで、母親達は子ども達よりも早く作品の変化に気づき、「良いねー、秋だね、うれしいね」などと言ったり、装飾が仕上がると皆が見に来て、良い表情で声をかけてくれるなどの姿を観て必要性を感じていた。

5) 親子関係・家族のための環境

子どもの笑顔がみられる場、子ども達が明るい気持ちで過ごせる環境、子どもと一緒に喜んだり楽しめる場所という内容のまとまりで、母親が子どもが作品を造る場面をジッと見つめ笑顔を出したり、一緒に作品作りを楽しんだり、装飾が少し変わるとすぐに子ども達に知らせて一緒に見に行くという姿が多く見られたことなどから必要性を気づいていた。

6) 子どもの成長発達にあった環境

子どもの作品の発表の場、子どもの成長過程が示せる場、成長発達の手助けになる場という内容のまとまりで、母親が作品を見ながら子どもと入院前の出来事の話をしたり、昆虫や動物の名前を教えて一緒に楽しんでいたりと、子どもの勉強の遅れを心配しているなどの姿から必要性を気づいていた。

7) 付添者が交流できる環境

母親同士が交流をもてる場、誰かと心おきなく話ができる場というまとまりで、母親同士が子どもと離れて話し合っている姿を観て必要性を気づいていた。

それらの内容は、母親が「生活をしている」、「子どもと治療をともにしている」、「子どもの成長発達を見守っている」の視点で構成されていた。

4. 装飾後の学生の評価および感想（反省会での発言内容）（表5）

いずれのグループもねらいについては季節感がだせた、動物園や運動会の雰囲気を作りだせたことで、ホールや病棟が明るくなった、楽しい雰囲気がでた、手作りのあたたかみをもった雰囲気になったと評価し、その結果、子ども達の喜んだ顔や姿を観て心から喜び、作品が子ども達に良い刺激になったことを確認した。

また作品を造る過程で子どもや母親の参加が得られ、子どもや母親とともに作り上げたことから、「たくさんの人の気持ちがこもった木」と評価し、その場所に親子が集まり、子ども達が作品を見て遊んだり、また他科の人達も集まってくる姿を観たことと、母親達から「ありがとう」と感謝の言葉を聞いて、親子ともども喜んでいることを確認した。

「装飾」によって、実際に病棟の雰囲気が見るようになったことや子どもや母親から喜ばれた体験をとおして、今後の課題として、もっと明るく居心地の良い場所になると良いと望み、多くの人が行き来するホールにあって、子ども・母親・人々を見守っているような木の存在、作品の存在の重要性を感じた学生もいた。さらに子ども達の意見をとり入れ、装飾の内容を一層充実させるとともに、実習の中期に完成し、「集団遊び」と関連づけるとより効果的になる、埃などをためずに清潔に気をつける、装飾品が落ちない、怪我をさせないように注意するなどが挙げられた。

5. 母親の感想

ホールで作品を見ていた母親に、装飾についての感想を聴いた結果を表6に示した。

装飾によって病棟が小児科らしく、明るくなったと評価しており、季節感を感じられることを喜んでいた。季節を感じられることは外出できない子ども達にとって慰めになること、装飾は子ども達の知的発達に活用できること、子ども達の喜ぶ姿を見て、声を聞いて母親が子どもと一緒に喜ぶことなどを述べていた。作品については大人も楽しめるものという希望があった。

これらの内容は学生の評価・感想と類似していた。

表5 装飾後の学生の評価・感想

N = 80

[[「ねらい」の達成]

- ・ホールが「春」・「夏」・「秋」・「クリスマス」になり、季節感がでた。
- ・病院を感じさせない楽しい動物園・運動会の雰囲気を作り出せた。

- ・病棟が明るく、楽しくなって良かった。
- ・可愛く、夢のある楽しい雰囲気になった。
- ・ほのぼのとした雰囲気になった。

- ・子ども達に夢を与えるような素敵なものができた。

- ・既製品には無い手作りの暖かみを感じた。
- ・手作りのクリスマスを迎えられて良いと思う。

[達成感]

- ・子ども達の喜んだ顔が見られて良かった
- ・「ぶどうだ」「ぶどうおいしいね」という声を聞いて、秋を楽しんでもらえてうれしい。

- ・子どもも参加して、私たちと子ども達のたくさんの気持ちがこもった木になったと思う。
- ・子ども、母親、学生が協力したものができて良かった。
- ・子どもと一緒に作りあげたもので、児が喜んでくれて嬉しい。

- ・母親達がホールに訪れ、「すごいねえ」と喜んでくれて良かった。
- ・親子ともに「夏らしくていいね」と集まってきてくれて嬉しい。
- ・母親達に「ありがとう」・「ご苦労さま」と言ってもらえて嬉しかった。
- ・他科のお母さん達にも見てもらえて嬉しかった。

- ・子どもの作品を飾り、それを子どもが見て喜んでいて嬉しい。
- ・子ども達が動物の名前を1つずつ呼んで歩いていった。嬉しかった。

[装飾への希望]

- ・もっと明るく居心地の良い場所になると良い。
- ・ホールに出たら、外に遊びに行ったような気持ちになってほしい。
- ・子どもがホールへ来るのを楽しみにして、遊んでいるとき明るい楽しい気持ちになれたら良いと思う。
- ・この飾りがきっかけになって、皆に良い変化があると良いなと思った。
- ・木が子ども達を見守っているような気がする。

[今後の課題]

- ・今後も、子ども達の意見を取り入れていくと楽しいものができるであろう。
- ・集団遊びに装飾の雰囲気が効果的である。

- ・清潔を考慮して造らなければならない。
- ・作品が落ちないように、安全に注意しなければならない。

[「ねらい」について]

- ・大きなたくましい木ができました。いっぱいの花が咲いて、小児科らしいホールになりました。
- ・たくさんのお花、病院にも春がきたようで明るくなりました。
ホールを通るのが楽しみです。
- ・サクラとチューリップ、春らしくてとてもかわいいなと思った。
チョウチョや菜の花が少しあればいいなと思う
- ・季節感があって、とても良かったと思います。
- ・季節にあっていて、とても良かったと思います。色とりどりにとてもきれいにできていて「すごいなー、よく造ったな」と感心しました。
- ・子どもが喜ぶような飾りで、明るい感じがします。
これからも季節感のあるものを飾ったら良いと思う。
- ・病室の外へ出られない子ども達には、ホールの飾りに季節感があるのはとても慰めになると思います。
たくさんのお花をつくるのは大変だったでしょう。ありがとうございました。
- ・「鯉のぼり」を教えた時期だったので、子どもが「鯉のぼりだ!」と言って指をさしたりして見てました。とても喜んでいて良かった。

[満足感]

- ・花や木が本物みたいになっていて、とてもきれいでした。
- ・女の子ですが、「鯉のぼり」を見て喜ぶ声が聞こえ、とても嬉しそうでした。
- ・子どもの年齢がちょうど参加しやすい内容で、楽しませていただきました。
- ・子どもも制作に参加させていただいて、とても嬉しそうでした。
- ・お花造りや飾り付けなど楽しんで手伝いに行っている子どもの様子を見て、嬉しかったです。

[装飾への希望]

- ・年に何回か装飾が変わるのをとても楽しみにしています。
毎回すてきに飾り付けられていると思います。
- ・飾りは子どもも大人も楽しめるものが良い。

[その他]

- ・学生さんが一生懸命造ったものなので、大事にしたいと思います。

考 察

「病棟装飾」の実施をとおして、学生は子どもと母親の反応から、長期入院児と付き添いの母親に望ましい病棟の生活環境についてそれぞれ7つの視点から必要性を挙げた。その必要性は母子に共通のものであって、1. 「治療をする」場、2. 「生活をする」場、3. 「子どもが成長発達をする」場の視点で構成されていた。

1. 「治療をする」場としての環境

児は治療・検査目的で入院するために、その目的を助成できる環境が何よりも必要となる。学生は「気分転換ができる」、「付添者が交流できる」環境を挙げた。

1). 「気分転換ができる環境」

安静度により単調な生活を強いられ、また苦痛を伴う検査や治療をくり返す子どもと、子どもの状態に不安を感じ、不便がる母親の気分転換をはかることは重要なことである。

病気を理解できない児では特に、医療処置

は著しい心理的混乱を引き起こすことになる検査²⁾。治療に対するストレスは拒否のように治療効果にも影響を及ぼすことがある。そのために、診療室に人形を飾ったり、アニメキャラクターの絵を貼ったりして、子ども達の不安感をできるだけ除こうとしている施設は比較的多い³⁾。快い環境は、子ども達の不安を少なくし、検査や処置に対する協力を得やすくもするものである⁴⁾。

また母親のストレスは、子どもへの関わり方に影響し、子どもは感情的な対応を感じることになる。子どもにとって母親の存在は緊張感を和らげるものである⁵⁾。しかし、母親の顔色を伺ったり、母親を気遣う子どもがいることは注意しなければならない。子どもの状態で一喜一憂する母親の気分転換をはかることは重要なことである。

2). 「付添者が交流できる環境」

看護者は子どもの病状にいつも不安を抱えて、誰にも相談できずに苦しんでいる母親がいることを理解して、援助しなければならない。同じ疾患の児をもつ親、闘病生活を支える親同士が落ち着いて話をし、心を通い合わせることで、しっかりと子どもに寄り添うことができるような場づくりが重要である。

2. 「生活をする」場としての環境

児と母親は病棟で生活をしている。快適な生活をおくるための環境が必要となる。学生は「家庭のような居心地の良い」、「ゆっくりとくつろげる」、「季節感・変化を味わえる」、「子どもらしく生活できる」、「健常児の生活に結びついた」、「親子関係、家族のための」環境を挙げた。

1). 「家庭のような居心地の良い環境」、「ゆっくりとくつろげる環境」

病棟の生活は、白い壁や医療器具に囲まれた生活であり、子どもや母親にとっては脅威

の場となる。その上、一母子あたりの生活空間は2畳程度で、行動範囲が制限され、四六時中子どもと生活を共にし、子どもと同じベッドで休む母親は、心身ともに大変疲れている。母親の疲労は児の世話に影響を及ぼすことになる。医療者にとっては日常と感じられる環境も、子どもと母親にとっては非日常のものである。看護者はその点を十分認識して、常に居心地の良い場の提供、休息のとれる配慮をしなければならない。

2). 「季節感・変化を味わえる環境」

長期間、外出・外泊が制限される子どもと子どもに付き添う母親にとっては、病棟での生活は変化が少なく、室温も調節された病棟では季節の変化に気がつかないこともある。また、変化の少ない生活に慣れて、年中行事なども感じにくくなっていることが多い。子どもは見る、聞く、触れるという手段で自然から学ぶ力をもっている。年間の行事をとおして学習することも多い。子どもが生活をする場にはできるだけ季節の変化—四季をめぐる1本の木のような自然—を身近におきたいものである⁶⁾。母子ともに貴重な日々を有意義に過ごせるように、季節感・行事の提供も忘れてはならない。

3). 「子どもらしく生活できる環境」、「健常児の生活に結びついた環境」

子ども達が病棟で対応している相手は医療者や母親が多く、同年齢の子ども達と遊ぶ機会は少ない。その上、活動制限があり、自由を奪われている。長期入院の児にとっては、入院生活という特殊な環境に慣れることにより、話題、人との交流の仕方など、入院前の生活とのズレを生じることになる。子ども達がのびのびと生活できるように、状態の良いときには子ども同士が遊べる場づくり、子どもの発達にあった遊びの提供が必要であ

る。また、病棟の雰囲気をつくりだせるだけ家庭生活や幼稚園・学校生活に近づけるような環境をつくることも大切である⁷⁾。児の健康な時の生活を常に話題にできるような環境の配慮が望ましい。特に低年齢の児には注意が必要となる。

4)。「親子関係、家族のための環境」

母親は子ども・家族と楽しく過ごすことを楽しみにしている。子どもにとっても同様である。母親の幸せは、子どもが闘病生活を快適に過ごすことができることであり、入院期間中でも兄弟姉妹や祖父母・親子がともに生活できる場を提供し、家族の絆を強めるような援助が大切となる。家族の付き添っていない児には特に配慮を忘れてはならない。

3. 「子どもが成長発達をする」場としての環境

子どもは常に成長発達をしている。そのため環境を整えることが必要である。学生は「子どもの成長発達にあった」、「新しい刺激のある」環境を挙げた。

1)。「子どもの成長発達にあった環境」、「新しい刺激のある環境」

子ども達は多くの刺激を吸収して発育してゆく。特に精神発達の臨界期にある乳幼児にとっては、神経系の発達や学習のために常に新しい刺激を受けることのできる環境が必要となる。豊かな感覚刺激を経験するか、それを遮断されるかは後の学習や適応の発達の要因になるといわれている⁸⁾。保育環境としての保育室の状況を見ると、室内装飾は保育室の雰囲気を醸成するものとして不可欠なものとしてとされている⁹⁾。子どもの成長発達を考えて看護をするためには、病棟に保育のための雰囲気を醸成する装飾・遊びなどの新しい刺激が欠かせないと言えよう。日常は単調になりがちで、周りからの刺激も少ない状況であっ

た回復室で、季節ごとに壁面の装飾を行い、変化による刺激を与えた例もある¹⁰⁾。発達への援助とともに保育の視点を入れた環境を忘れてはならない。

また母親は、子どもの成長発達を楽しみにしている。看護者は母親とともに児に関わり、母親自身が児の発達過程を観ること、母親に子どもの成長発達の評価を示すことが大切になる。成長発達の最も著しい時期に入院している子ども達を考え、成長発達への環境づくりを重視しなければならない。

環境とは「人間をとりまき、それと相互作用を及ぼし合うところの外界」と定義される¹¹⁾ように、快適に生活するためにはおかれた生活環境に適応できるような工夫が必要となる。しかし、適切な適応の手段をもたない子どもにとっては、病気にかかり、その上長期間、病院の特殊な環境の生活に適応することは容易ではない。また、小児看護においては、常に親子の相互作用を考え、母親、子どもの両者にとって良い環境を提供する必要がある。看護者は常にその点を認識して、環境への援助をしなければならない。

「病棟装飾」のような環境は、積極的に子どもや母親とともに造ってゆく環境であり、病棟で生活する子どもと母親の活動や日々の生活の中で変わってゆくものである。またねらいや活動によって看護者が提供したり、子どもの前から取り除いたりすることもある。このように調節可能な環境の構成は、病棟で生活する子どもと母親の生活に対するニーズに応えることができ、快適な生活を送るための援助につながると考えられる。

今回、学生は装飾後の評価・感想の中で、装飾により季節感が出せた、運動会などの雰囲気を醸成させたことで病棟が明るくなった、楽しい雰囲気が出た、あたたかみをもった雰囲気

気になったと述べている。そして、病棟の雰囲気は良く変化したことで子ども達・母親の表情が明るくなり、子ども達の成長発達の援助にまでつながってゆくことを気づいていた。それは、母親の感想からも確認できており、学生は病棟の環境構成の必要性を気づくことができたと評価できる。

吉武は¹²⁾「小児病棟は小児の健康回復を促進するとともに、小児にとっては安全で楽しく、心安まる場所であり、同時に小児の発達段階に応じた適度の刺激があって、小児の成長・発達を助ける場所であることが望まれる。」と述べている。今回「病棟装飾」の援助によって、吉武の述べるような小児病棟の環境が整えられることが確認できた。

今後の課題

子どもの発達と生活の質の保証の視点から本分析をすすめたが、「病棟装飾」という看護援助で子どもと母親の生活の質を高めることが可能になることを確認した。今後さらに児の発達に応じた刺激内容と量、安らぎのための配色、季節の表現方法など装飾内容の検討をすることでより良い環境が造られると思われる。また、「集団遊び」と関連づけることで効果をより引き出せるものもある。大切なことは、闘病生活をおくる子どもと母親にとって魅力のある環境であることと、子どもの活動への意欲をかりたてることである。この結果に基づき学生へ効果を伝え、実習時に継続して病棟装飾を行うこと、病棟のスタッフの協力を得ることなど、指導に生かしてゆきたい。

まとめ

小児看護実習の「病棟装飾」をとおして、長期入院児とその家族にとって、望ましい生

活環境は何かについて、学生の気づきから検討した。

その結果、子どもにとっての望ましい環境として次の7項目があげられた

1. 家庭のような居心地の良いこと
2. 季節感を味わえること
3. 新しい刺激のあること
4. 成長発達にあっていること
5. 気分転換のできること
6. 子供らしく生活できること
7. 健常児の生活と結びついていること

家族に対しては次の7項目であった

1. ゆっくりとくつろげること
2. 家庭のような居心地の良いこと
3. 気分転換のできること
4. 季節感・変化を味わえること
5. 親子・家族関係に良いこと
6. 子どもの成長発達にあっていること
7. 付き添い者が交流できること

これらの項目は、小児看護の病棟環境の目標を満たすものであり、病棟装飾が生活環境への援助に有効であることが確認できた。

文 献

- 1) 阪口しげ子, 下條美芳: 長期入院児の成長・発達に対する母親の意識. 信州大学医療技術短期大学部紀要, 第22巻: 121-133, 1996.
- 2) 梶山祥子, 鈴木敦子訳: 病める子どものこころと看護 p 110, 医学書院, 1988.
- 3) 安藤昌子他: 長期入院児の遊びへの取り組み. 小児看護, 22(4): 411-418, 1999.
- 4) 梶山祥子, 鈴木敦子訳: 病める子どものこころと看護 p 151, 医学書院, 1988.
- 5) 依田明: 母子関係の心理学 p 113, 大日本図書, 1985.
- 6) 巷野悟郎他編: 保育技術辞典. 同文書

院，東京，1980.

7) 牧洋子，井上恵美子，阿部智美：医療者の遊びへのかかわり．小児看護，22（4）：434-439，1999.

8) 井上健治：子どもの発達と環境 p 85，東京大学出版会，1985.

9) 珠川善子，田中未来，斉藤謙：保育所実習 p 57，川島書店，1980.

10) 市村真理子，斉由美子：ウェルドニッ

ヒーホフマン病児とその家族への遊びの援助 小児看護，22（4）：393-398，1999.

11) 新村出編：広辞苑 p 487．岩波書店，1975.

12) 馬場一雄．吉武香代子編：系統看護学講座，小児看護学 I，p 348，1999.

受付日：1999年10月12日

受理日：1999年11月29日